

学ぶなら 今でしょ！『どうして がんになるの？』

みなさま、がんについてどのくらいご存知ですか？ その原因、予防、治療などを理解するのは大変難しいことです。ここでは、がんの基礎的な知識について質問形式でお答えいたします。

① どのくらいの人のがんに罹患するのか？

日本人は、一生のうちに、2人に1人が罹患すると言われています。がん登録データに基づくと、がんになる確率は生涯で男性が62%、女性が47%であり、全死亡数の29%、およそ3人に1人の割合で悪性腫瘍が原因で亡くなります。がんは、既に身近な病気になったと言えます。

② がんの原因は何か？

がんは本人の遺伝子異常による病気です。つまり体の細胞が分裂して増殖する際に、DNAのコピーミスが発生し、がん細胞が生まれます。その原因は、タバコであったり、食生活であったり、ウイルスや細菌、生まれ育った体質、そして加齢の影響で、コピーミスが発生します。1個のがん細胞が分裂して、2個4個と増殖し初期のがん（診断可能レベルのがん）になるのに、一般的に5年～20年かかると言われています。そのため、初期段階では自覚症状がありません。そして他人にうつる病気ではありません。

③ がんは予防できるのか？

がんの原因と考えられている健康習慣を改善することで、発がんのリスクを低下させることができます。それは、禁煙、節酒、食生活の見直し、運動不足の解消、適正体重の維持などによって、約40%リスクを低下させる（予防する）ことができると報告されています。しかし、それらを全て心がけていても、がんにならないようにすることはできません。

④ がんになったら、治るのか？

国立がん研究センターの2019年12月付の報告では、2010～11年にがんと診断された患者が5年後に生存している確率は66.4%であったと発表されました。つまり3人に2人はほぼ治癒したと理解できます。

がんの部位別の5年生存率では、前立腺（98.8%）、女性乳房（92.2%）などで高かった半面、早期発見と治療が難しい膵臓（すいぞう）（9.8%）では低い結果でした。

最後に、がんと診断されて生活や医療費などでお悩みの方や、将来の不安や心配事を抱えている方は、ぜひとも当院の相談支援センターにお越しください。1人で悩みを抱え込まないで誰かに相談しましょう。

【院長 加藤 広行】

